

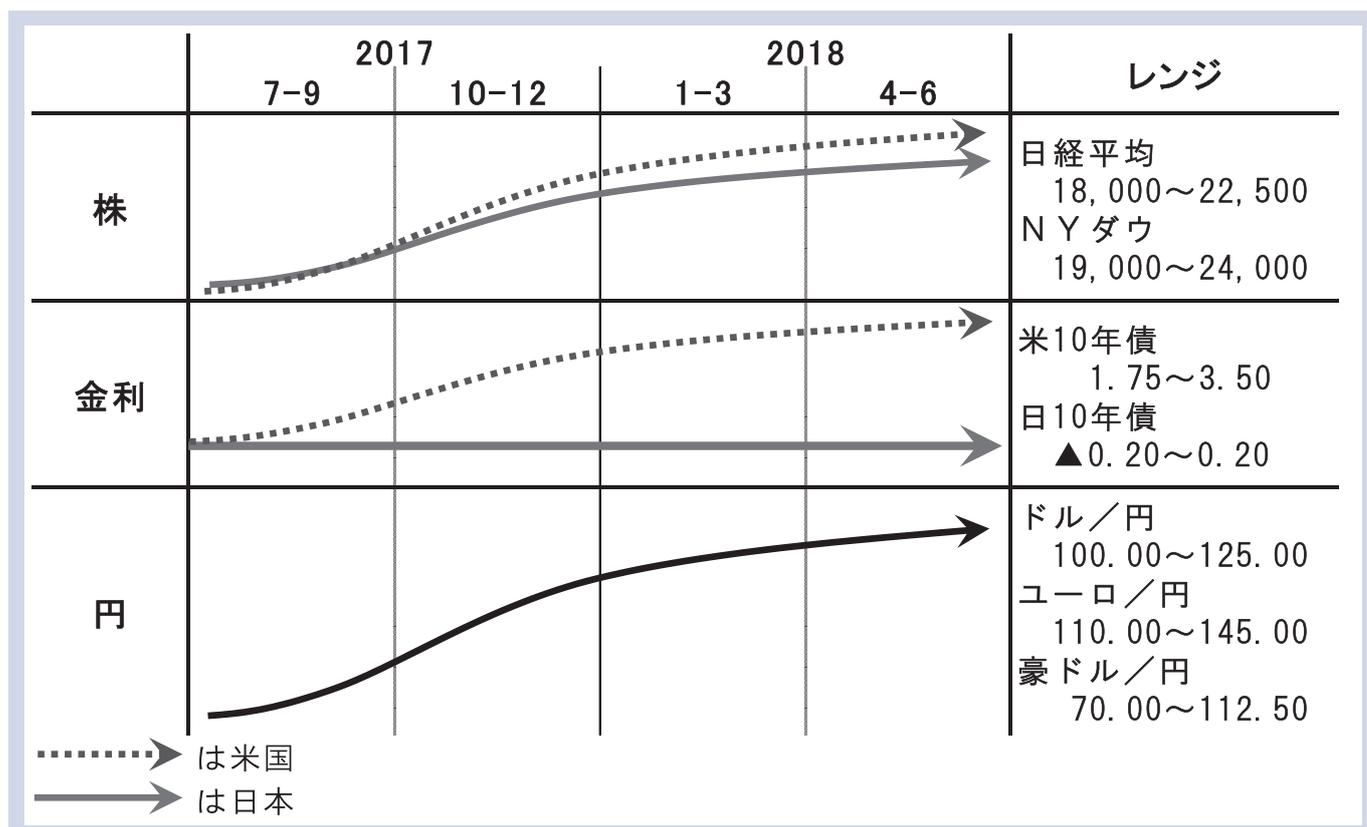
# 各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(8月7日時点)

## I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	輸出が増加基調にあることや在庫調整の進展、経済対策の効果発現等を背景に景気は持ち直している。先行きも、輸出増加が続くことに加え、企業収益の改善から設備投資が増加することが景気を押し上げる見込みである。景気は着実な改善を続ける可能性が高い。
② 米国	米国経済は、トランプ政権による政策の実行が遅れるなか、4-6月期に雇用・所得、資産残高の増加等を背景とした個人消費の再加速等により、景気拡大ペースが再び速まった。年後半も消費などが牽引する形で緩やかな拡大基調を維持する公算が大きい。景気拡大や労働市場の逼迫が続く中、FRBは9月にもバランスシートの縮小を決定するほか、緩やかなペースでの利上げを継続すると予想される。
③ 欧州	ユーロ圏経済は、①政治リスクの後退、②世界景気の回復持続、③雇用・所得環境の持ち直しを背景に、堅調な拡大基調を持続する公算が大きい。ただ、今後、ECBが金融緩和の段階的な縮小に向けた検討を開始する可能性が高く、緩和マネー縮小による金融環境の変化や急速なユーロ高進行に注意が必要となろう。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、世界景気の底入れを反映して外需を中心に回復が続いている。国際金融市場も比較的落ち着いた展開となっており、現状は堅調な資金流入が続いている。頭打ちが懸念された中国経済にも底堅さが窺えることから、国際金融市場の落ち着いた展開が続けば、先行きも堅調な景気拡大が続くと見込まれる。

## II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注)記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。